

問 少子化、高齢化、資金面で遠野の伝統の存続が危惧されるが、昔話のみならず伝承芸能、郷土料理、昔から伝わる行事などの保存のための取り組みはどうしていくか。

答 郷土芸能については、遠野の歴史や文化が育んだ宝であり、世代間交流や地域づくりには大いに寄与している。イベントや発表会、出演機会の創出や補助制度による用具整備や記録保存を行い、復活団体の活動支援を行っている。



語り部スポットやしろまえでの実演風景



永遠の日本のふるさと遠野について

照井文雄 議員 (清風会)

問 観光客の対応について、市民一人ひとりが「もてなしの心」を意識し、観光に対する意識改革が必要ではないか。

答 遠野「語り部1,000人プロジェクト」の認定制度により、食の語り部56名が認定され、郷土食や伝統食の伝承が図られている。

次に昔からの地域行事の保存については、観光施設、地区センター、自治会、PTAなどで取り組みがなされ、他地域と比較して高い意識があるものと認識している。

また、「語り部1,000人プロジェクト」の歴史の語り部には地域行事の語り部としても活躍いただいている。今後とも市民協働により、着実に保存・継承に取り組んでいく。

昨年(2023年)の遠野市への入込人数は、約198万人であり、観光サポーターやJR遠野駅での「お出迎え隊」の活動、「花いっぱい運動」等、市民協働で観光客の「おもてなし」が展開されている。反面、十分なものとは言えず厳しいご意見もいただいているが、その都度改善しながら取り組んでいる。現在、観光のあり方について、進化まちづくり検証委員会で議論しているところであり、今般、国土交通省の支援で「観光地域づくりプラットホームモデル事業」に取り組みることとなった。観光関連事業者が一体的に観光客の受け入れを行う仕組みづくりを検討し、遠野ならではの「おもてなし」の環境づくりに取り組んでいく。